

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775201003		
法人名	医療福祉生活協同組合おおさか		
事業所名	びろうじゅ高倉		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大阪市高倉町2丁目3-4		
自己評価作成日	令和5年9月22日	評価結果市町村受理日	令和5年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療生協が運営するグループホームです 開設より16年を経過し少しずつ地域に根差した施設になってきました 入所後、法人内のクリニックや訪問看護・訪問歯科・訪問リハビリなどと連携してホームでの生活のし易さを提供しています 認知症専門医との連携もしており、周辺症状への配慮もしています 集団の中の一人ではなくその人らしく日々の生活を楽しんでいただくために専門職としての関りができるよう職員の研修を継続的に行っていきます

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和5年10月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和5年4月に5つの医療生協法人が合併、「健康で居心地のよい大阪のまちづくり」を目指し誕生した医療福祉生活協同組合が運営するグループホームです。閑静な住宅街に建てられた建物は周りの住宅に溶け込んでいます。大型ショッピングセンターや公園がそばにあり環境にも恵まれています。ホームの名前「美老樹(びろうじゅ)」には、高齢になっても美しく生きるという意味が込められています。集団の中の一人ではなく、一人ひとりを大切に家庭的な雰囲気の中で不安を感じることがないように、さりげなくかつ温かいサポートで毎日を安心して過ごせるような支援をめざしています。ホームでの看取りも行き、職員は看取りの中での学びを日常のケアに活かしています。医療との充実した連携は、利用者・家族の大きな安心と信頼に繋がっています。利用者の毎日と職員の頑張りを楽しく、嬉しそうに語る就任2か月目の管理者の表情から、今後のサービスの向上が期待できるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	既存の事業所理念を踏まえ、職員会議で利用者、職員が共に日々笑顔で過ごすことが大切と思い「みんな笑顔」とした。職員の入れ替わりもあり再度話し合いを深めたい	「認知症によって自立した生活が困難になっても、安心と尊厳のある生活を営むことを支援するための知識と技術を持って、家庭的な雰囲気の中で個々の生活歴を大切にしながら残された機能の低下防止に努めます」を事業所の理念としています。法人が新しくなったことを機会に、職員間で話し合い、自分たちが目指す理念を作る予定です。	職員みんなで考え作られた具体的な理念が出来上がり、理念の共有と実践で、さらなるサービスの向上が期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入している以前は地域行事にも参加出来ていたがコロナ禍の為行事自粛となり交流できずにいる古紙回収など子供会活動には協力している	自治会に加入し、地域の夏祭りや近隣幼稚園の桜まつり等に参加し、園児や地域住民との触れ合いを楽しんでいましたが、コロナ禍以降は中止の状況です。古紙回収での子供会活動への協力は続けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は旧法人発行の新聞に豆知識を記載したり、組合員や組織部を通してのお問い合わせなどにはすぐに対応していた。法人合併に伴い新たに模索している所である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ化禍が長く続いた事で開催出来ていなかったが、以前は町会方から回覧板への搭載や施設見学の実施などの具体的なアドバイスを戴いたりしていた。そうした取り組みを復活させて行きたい	町会長・婦人部長、地域包括支援センター職員の参加で開催していましたが、コロナ禍以降は資料を配布して意見を聞いています。コロナも5類となり、今後は対面での会議を開催する予定です。	運営推進会議の対面での会議が実現し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かされることが期待されます。会議では報告だけではなく、ホームの課題や悩みなども相談されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護支援者の受け入れをしており支援課とのやり取りを行っている	生活保護を受けている利用者の中で、生活支援課に行く機会は多く、相談事がある時は、市の介護保険課等で顔を合わせて相談していきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時には身体拘束についての書面を取り交わし、入り口の4施錠や居室内での転倒転落についても本人やご家族の意向をふまえてケアをすすめている	身体拘束適正化対策委員会を開催し身体拘束防止に役立てています。 ホームの玄関は、新規の利用者や無断外出する利用者などの安全を勘案し、施錠していますが、閉塞感を感じさせないように、外出の機会を多くつくるように努めています。 管理者は、職員のストレスにも配慮し、話しを聞くときは手を止めてしっかり聴くことを心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	大阪市の虐待防止の資料等を職員に配布し職員会議でも話し合いをすすめている。又ケア中での不適切な言動に関してもその場で注意するようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前身寄りのない方が入所され、後見人の方が来所されることがあったが今はおられない、今後そうした方が入居されることも増えて来るかと思われるので学びを深めたいと思う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては事前の面談や見学を行い不安や疑問の解消に努めている。契約締結時には十分に時間をとり説明を行い納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人の意見や要望は都度々に対応しており、職員間で共有している。又ご家族へは面会時や問題が起きた時には、管理者より連絡をとり意向を確認している	家族の面会時には、職員から声かけを行い、意見や要望を聞いています。コロナの感染予防のため、面会は現在時間制を設けています。利用者の暮らしぶりをより知ってもらうため、今後、毎月の請求書送付の際の手紙の同封を予定しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や職員の契約更新時に面談を行い意見や提案を聞いている。又日常のケアの場面でもフランクに意見を聞くようにしている	日常の雑談の中でも、気兼ねなく意見を交わす機会になっています。管理者は日常的に職員が意見を言いやすい雰囲気作りと職員の気持ちを吸い上げていくことを心がけています。	職員の意見や要望が言いやすい職場環境ですが、今後は職員全員で話し合える会議の開催が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員jの動向については上司に報告している。又進退についても問題があればすぐ報告し必要があれば一緒に面談を行い意見を聞くようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者職員個々人のケアの力量を把握しているわけではないが、役職者との連携を図り、把握に努めている。法人負担での通信教育の推奨や外部研修の参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療生協として民医連などの研修参加や他生協との交流会への参加を呼びかけている 当ホームでは都島区内の高齢者施設連絡会に参加し他施設との交流によりサービスの質の向上に努めている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談には本人の居住先へ出向き住環境も含めた環境把握に努めている。ご家族との面談の時間も十分に確保しご本人の人となりや生活歴のが把握できるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談では十分に話を聞く時間持ち情報収集に努めている ホームで具体的な内容を示しながらホームでのありようを提示し安心して頂けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前面談では、ご本人の今の課題を探るようにしており、必要であれば法人内の他のサービスを、ご本人が望んでおられる生活が維持できるように情報提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活は本人主体の場であり、職員は本人を一人の生活者と捉え、本人の生活力の不十分な部分を補いながら日常生活を過ごしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ化禍ではあったが双方向での情報共有を行い、少しでもホームでの生活がし易くなる様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に面会時間を連絡戴きできるだけ馴染みの関係が継続出来るようにしている。誕生日会等も個別にお知らせして同席戴けるようにしている	利用者の知人が訪問する機会もありましたが、コロナ禍以降中止の状況です。職員は利用者の生活歴を聞きながら、馴染みの関係継続を大切にしたいと支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの席順にも配慮し関係作りが出来るように支援している。又言葉の行き違いによるトラブルなどには職員が間に入り話題を変えたりして良好な関係作りが出来るように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での退所であっても時に面会に伺っている。又ご本人ご逝去の際には通夜やご葬儀に列席させて頂いている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常にご自分の希望や意向を表出する事は難しいが、出来るだけご本人の言葉を聞き取り、本人が選択出来るように関わっている	管理者は職員に「目的をもって観察する」ことの大切さを伝えています。利用者の気持ちを大切に前向きに理解できるようになるためには、認知症についての正しい理解と専門的な知識や技術の必要性があると考えています。入浴時の1対1でのコミュニケーションは本人の気持ちをよく知ることが出来る大切な機会となっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常にご本人との会話に努め、職員間での情報共有を図りながらご本人の意向をくみとるようにしている 困難な場合は、本人が望まないと思われる対応はしないしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的にご本人の言動を注視し、いつもと違うことに気付くようにしている その気づきを職員間で共有し、ご本人の心身の状況把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアの中や職員会議、又ご家族の面会時などには、現状のご様子を報告し困りごとやあるべき姿を探っているその情報を介護計画に反映させている	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。定期的な見直しに加え、状態に変化があった場合は随時見直しています。家族の意向や意見は、電話やLINE（コミュニケーションアプリ）で聞いて計画に反映しています。計画作成担当者は介護計画を作る際に「本人が望む生活の実現」を心がけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や管理日誌に気づきを記録し職員間で情報を共有している。又職員間での連絡メモにも工夫や気づき記録し実践す事で介護計画に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のサービスだけでなく地域の中の公的なサービスやボランティアの活なども視野に入れて支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人々の地域資源の活用は今ではないが、ホーム全体としては、商業施設や地域の公園の活用や地域の中学生的実習や町会行事の利用などを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入所にあたり、今までのかかりつけ医のご利用が可能と伝えているが概ね法人内の主治医に移行されている	連携医師による訪問診療は月2回、訪問看護は週1回ですが、救急急変時には24時間連絡可能です。かかりつけ医への受診は、病院の送迎車があり安心です。週に1回、口腔ケア専門技師も訪問しています。主治医の意見を基に「利用状況報告書」を作成し、利用者の状態の把握に努めています。状況により了解を得て、端末機の画像を家族に提供しています。感染対策マニュアルも作成しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週の看護師訪問時にはご利用者様の日々の気付きや不安な事柄について報告相談し適切なアドバイスを貰っている又緊急時には連絡し主治医へ繋げ指示を受けるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が付き添い容体説明を行っている 又介護サマリーの提供を行い、主治医カンファの時にはご家族と同席させていただき情報収集を行っている 入院が長期化する場合はMSWと今後の方向性について話し合い、連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取り指針に基づいた説明を行い同意を得ている 実際にそうなった場合は、適時ご本人や家族の意向を確認しながら各専門職より情報を収集し看取りのための計画を作成しホームでのケアのあり方を示すこととしている	重度化や終末期には、連携医師の指示や家族の意向を大切にされた看取りケアをしています。看取り後の振り返りや職員の精神的ケアにも取り組んでいます。入居半年で利用者の看取りを経験した家族から「早くこのホームに入居していればもっと楽しく暮らせたのに」との言葉が寄せられ、利用者や家族との信頼関係を築けるケアをより大切にしたいと、管理者は話します。	主治医の指導の基「重度化や看取りに関する指針」を作成、文書化し、職員間で共有されてはいかげでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルは作成しているが応急処置や初期対応の訓練は不十分である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法廷内の災害対策マニュアルは策定されているが、全職員への周知は不十分である	大阪消防振興協会(一般財団法人)の指導による消防訓練を年2回、うち夜間1回を実施、指導結果報告書も受領しています。自主訓練のマニュアルも作成し、水害時には垂直避難で安全を確保します。事業継続計画(BCP)書は完成しており、再確認を行う予定です。	災害時に備え、災害対策用品(備蓄品)の確保が望まれます。又、品目、数量、消費期限などを記入した備蓄品一覧表を作成、掲示して管理されてはいかげでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの場面での言葉かけには特に注意しており、人生の先輩として失礼のない砕けすぎない言葉かけをするようにしている あらゆる場面で不適切な言動があればお互いに注意するようにしている	個人の人権やプライバシーを尊重する支援に努め研修会も実施しています。一人ひとりの人格を大切にする声掛けをし、不適切な対応に遭遇したら、管理者はその場でそれとなく助言し、コンプライアンス遵守の意識徹底に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面でご本人の思いや希望を読み取るようにしている ご本人の出来る範囲で選択できるよう関わるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れや食事時間などは大まかに決まっているが、それに縛られることなくご本人のペースに任せている あまりにも逸脱している場合はしゅうせいするようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴準備時の衣類の選択への問いかけや髪型や嗜好品など画一的にならないように配慮し、ご本人らしさが損なわれないようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁の具材切や盛り付け、食器洗いやテーブル拭きなど食事ごとにみんなで関わるようにしている 食事介助や見守りの必要な入居者が複数おり、職員と一緒に食事をすることはできていない	委託業者に依頼し、主菜・副菜がメニュー毎に届けられ、利用者の好みの量に盛り付け提供しています。朝食と汁物は職員が調理します。利用者は盛り付けや献立表の記入など、できる事を手伝います。きのこの炊き込みご飯などで季節を感じたり、誕生日には好きなメニューで食事を楽しんだりしています。申し送り事項には、摂取状況を記入し、職員が共有、利用者に添った食事が提供できるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事ごとの食事摂取量や水分量は各人記録し把握している 不十分な時は摂取出来るよう勤めている 配色サービスにて食事形態に合わせて対応してくれている 食事前には航空体操を実施している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている 1回/週は訪問歯科による口腔ケアを行っており、誤嚥性肺炎の予防と口腔内の清潔を保っている 口腔ケアについて適切なアドバイスを受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で排泄状況を把握している 安易におむつを装着せず、特に日中はトイレでの排泄を尊重している 意思表示の出来ない方にもご本人様のしぐさなど注視しさりげなくケアすることで自尊心を失わず排泄能力が維持できるよう支援している	排泄パターンを把握し、声掛けしてトイレまでの移動見守りを支援をしています。紙パンツとパッド着用から布パンツに改善できた利用者もいます。おむつ交換は居室で行い、夜間は睡眠の妨げにならないように配慮して、個々にあった対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々人の排便状況や周期を把握し、緩下剤も併用しながら苦痛のない排便が出来るよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時として億劫だったり、羞恥心から入浴することを拒むことがあるが、ご本人様の思いも尊重しながら関わり、入浴後の爽快感を楽しんでいただけるように工夫している	入浴は週2回ですが、状況に合わせて柔軟に対応しています。入浴ができない利用者には、清拭、足浴、ドライシャンプーで対応しています。浴室は家庭的で、手摺も付けられ洗い場には滑り止めマットが敷かれています。現状の深い浴槽を、利用者が使いやすい浴槽に取り替える準備をしています。マンツーマンの介助で、日頃の思いを話す場となり、信頼関係を築く為の大切な時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームでの画一的な寝具は使用せずご自宅で使われていたものを持参いただいている 入眠剤は出来るだけ使用せず灯りや室温などご本人様の意向を確認しながら対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が対応できるよう最新の薬剤情報をファイルしており、いつでも確認できるようにしている 薬は各個人ごとに専用BOXで管理しており誤薬を防いでいる 降圧剤は医師の指示どおり、緩下剤に関しては個人に合わせてルールを決めており職員同士で確認するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員はご利用者の好みや得意の把握に努め、幾つかの選択肢を用意し、選んでいただきながら愉しみを提供できるように工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に即した外出はできていない 近所の公園への散歩や日常の買い物の同行 草木の水やりなど行っている	外気浴を兼ねて、少人数で公園や近隣の散歩をしています。幼稚園の近くでは、子供達の声や姿を楽しみます。消耗品やおやつ選びなど日々の買い物にも出掛けます。筋力低下予防に向け、連携診療所と契約し、理学療法士によるリハビリを実施しています。外出が十分でない中、職員の得意とする事を取り入れ、支援に繋げたいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心される方がいるので、ご家族様と相談し居室で財布を持たれている方もおられる 他は少額のお小遣いを預かり、管理者が出納長で管理をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方におられるご家族には時折電話をかけて本人と会話をする機会を設けている 手紙のやり取りは難しいが年賀状など出している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	灯りや室温、音量にも配慮している 貼り絵や写真を提示したりし暖かい雰囲気づくりをしている 本やゲームなど気に入ったものをいつでも取りやすいように整理整頓に努めている	二つの窓から日差しが差し込み明るいフロアです。壁には利用者や職員手作りの季節の飾り物が施され、楽しい雰囲気作りをしています。大きな木の模型を作り、季節の飾り物を作って取り付ける楽しみを企画中です。高さの違うテーブルが用意され、利用者の状態に合わせて食事をするすることができます。一人で作業をしたい、仲良しグループで話したい、ソファでゆっくり寛ぎたいなど、その人らしく暮らせる事を大切にしたい空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入り口扉前にソファを置き死角になる場所を作っている こだわりのある方の座席は決まっているが、ほかの方は自由に座っていただいたり、会話やコミュニケーションの取れそうな席を勧めたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはご自宅で使用していた馴染みのものをご持参いただく カーテンや家族写真をおくことで新しい居室が安心できるプライベートスペースになるよう配慮している	入り口のドアには、利用者毎に色分けしたデザインが施され、分かりやすく工夫しています。ホームではベッド、クローゼット、洗面台、エアコンが用意され、利用者は馴染みの物を持ち込みます。冷蔵庫を持ち込んだり、好みのカーテンを取り付ける利用者もいます。掃除の際にシーツ交換を行い、利用者も手伝います。利用者や家族から、入居前の様子を聞き、安心して暮らすことができる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札を掲げ、扉も色分けされておりご自身で判断しやすいようになっている また、トイレや浴室などを明示し混乱のないようにしている		